

追加エピソード2

ある日、Aさんは、ヘルパーさんと一緒にレストランへ出かけました。隣の席ではお父さんとお母さんと子どもの家族連れが食事をしています。

子どもがお母さんに訊ねます。

「隣の席の人は、なんで大きな声で騒いでいるの？」

するとお母さんは、子どもに言いました。

「あの人は、レストランに来られたことが嬉しいんだよ。とっても嬉しいから、ああやって喜んでるんだよ」

Aさんには、生まれつき発達障がいがあります。そのため、周りに人がいるような時でも、「ワーワーワー・・・」という声をあげたり、ピョンピョンと飛び跳るといった行動をとってしまいます。

そんなAさんのことをお母さんは障がい者や変わった人、ましてや迷惑なお客ではなく、たまたま居合わせた「お客さんの一人」として自分の子どもに説明をしました。

その後、ドリンクコーナーでピョンピョン飛び跳ねているAさんを見て子どもは

「あの人は、今日、本当にうれしそうだね」

とお母さんに話かけています。

お店を出るとき、Aさんに定員さんが

「いつもご利用いただきありがとうございます」

お店も、Aさんを受け入れ、他の方と同じお客さんの一人として接してくれます。

障がいのある人たちには、様々な障がい特性があります。

しかし、障がいのある人たちも、そうでない人たちと同じように暮らしたいと思っています。

周囲の人が、一人ひとりの障がい特性を理解し、温かい目で見守ってあげることで、Aさんも地域のなかで暮らしていけます。